

## ごあいさつ

金光図書館では、金光教内外の図書や新聞、雑誌、視聴覚資料のほか、金光教に係わる遺物、さらには美術品や工芸品、出土品といった博物館資料も多数所蔵しています。それらは本部総合庁舎1階の展示室において、折々の企画展を通して多くの方にご紹介してきました。

これまで歴代金光様に関わる遺物や書跡を中心に、所蔵する古書画や貴重書、古地図なども展示してきましたが、今回はこれまで展示される機会の少なかった洋画家のうち、小林和作、須田国太郎、小野鐵之助の作品を展示します。また、それぞれの画家たちが本館と地域文化の発展や醸成にどのように関わり貢献してきたかも紹介します。

豊麗な画風の風景画で中央画壇でも確固たる地位を確立していたにもかかわらず、尾道に移り住み“民衆画家”と自称して地方美術界において指導的役割を果たした小林和作。京都帝国大学で美学美術史を学び、「絵画は西洋と東洋でなぜ異なる発達を遂げたのか」という疑問をもとに、日本の精神文化に根ざした油彩画の追求に尽くした須田国太郎。金光教祖が13、4歳の時に手習いを受けた大谷村の庄屋小野光右衛門の子孫で、尾道で産婦人科を開業しながら画業に取り組み、のちに広島県美術展の審査員も務めた小野鐵之助。本展では、それぞれの作家たちの絵画作品や記録写真などを通して、金光鑑太郎と小林和作の親交を中心として、金光図書館という場にあらわれた人と人とのつながりが織りなした世界を紹介するものです。

令和7年3月 金光図書館